令和3年度

1　自己評価及び外部評価結果【B棟】

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0292500162		
法人名	株式会社　　東北産業		
事業所名	グループホーム　びわの荘		
所在地	〒039-3156　青森県上北郡野辺地町枇杷野51-24		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ3階
訪問調査日	令和3年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「住み慣れた地域で、その人らしく笑顔で暮らせるびわの荘」の理念のもと新型コロナウイルス禍で外出・地域の方達との交流、家族様との面会が難しい中で利用者様に季節感を感じて頂ける行事の工夫やオンライン面会で家族様との繋がりを大切にしている。日々、アクテイビティや季節を感じる装飾作りをおこなう等、利用者様に笑顔で過ごして頂けるように支援している。職員は利用者様の気持ちに寄り添い、その時の状態に合わせたケア方法をその都度、話し合いをおこない統一した支援ができるようにしている。職員は3ユニットの利用者様と関わりをもち様々な事柄について話し合い利用者様が安心して家庭的な雰囲気の中で生活できるように取り組んでいく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

近隣に住宅が少なく、交流を持つことが難しい場所にあるが、町の介護福祉課、防災安全課、地域包括支援センターの職員と運営推進会議等にて、意見交換や情報を共有し、サービスの向上に取り組んでいる。コロナ禍で面会制限があるなかでも、家族との関係性が途切れないよう、顔の見える対話ができる工夫をしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない（コロナ感染の為）
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない（コロナ感染の為）
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝の申し送り時に理念の読み上げ理念を意識し利用者様の行動を抑制せず笑顔で暮らせるようにアクティビティや装飾作りなどで利用者様との関わりを多くしている。	開設時に、職員全員で思いを話し合い理念を決めている。玄関に理念を掲示している。朝の申し送り時に読み上げしたり、毎月の会議で振り返り、ケアに対する意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、地域の方達とのつながりを持つために行っていた行事も出来ていないが今後、コロナ状況を確認しながら地域の方達と行事などで繋がりを持てるようにしていきたい。	コロナ禍以前は地域の行事や催しに参加したり、保育園等の訪問を受け入れしていた。近隣に住宅は少ないが、広報誌等を発行しグループホームへの理解を深めていただけるよう努めている。	近隣に住宅が少なく、積極的な関わりが難しい状況にあるが、利用者が暮らしやすい環境が構築できるよう、さらなる働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野辺地町主催の事例検討会議にて認知症の支援方向等を各事業所と意見交換していたが現在は新型コロナウイルスの為、参加していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議は新型コロナウイルスの為、書面にて利用者様の状況や施設の取り組みについて報告している。	会議には家族、地域包括支援センター、町の介護福祉課、防災安全課の職員、自治会長、老人クラブの方等が参加してる。今年度はコロナウイルス感染症対策のため、書面でのやり取りであったが、11月からは対面での開催を予定している。会議の内容は職員に回覧し、出された意見を参考にサービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルスの為、メールや電話で情報の共有をしている。	直接担当課へ出向いたり、電話やメール等で連絡する等、情報を共有できるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修を行い全職員に周知し2ヶ月に1回、身体拘束委員会を実施する前に各ユニットで身体拘束防止シートに基づいて話し合いを行った後に委員会でも話し合いをしている。玄関も施錠せず利用者様が戸外へ出る際は付き添いをして対応している。	夜間は防犯のため玄関の施錠をしているが、日中は気兼ねなく外出できるよう見守り、付き添いを行う等の対応をしている。研修会にて理解を深め、気になったことは、職員会議や委員会で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を行い2ヶ月に1回、虐待の芽チェックリストに具体的に記入してもらい各ユニットの集計結果に対して委員会からの案も用いながら各ユニットで今後の対策を話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度の内・外の研修の実施ができていない。今後は外部の研修を受講し内部研修で職員全員に理解に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は書面に基づいて家族様が理解して頂けるように丁寧に説明をしている。また、退居時は家族様が不安にならないように退居先などの関連事業所と連携をとり情報提供している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。新型コロナウイルスの為、面会制限もあり毎月のお便りで利用者様の様子を伝え受診後に家族様に様子を伝える際に要望等を聞いている。また、利用者様との会話の中で要望や気持ちを話して頂けるように寄り添い支援している。	利用者との日常の会話の中で意見を聞くよう心掛けている。家族の面会時や電話の際に、意見や要望を確認し、希望に沿った支援ができるよう検討、改善を行っている。また、玄関に意見箱を設置し、いつでも意見を投函できるようにしている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット・全体会議や日々の業務の中で業務内容や利用者様のケアについて職員間で意見交換を行い支援している。今後も職員が発言しやすい環境作りに努める。	毎日の申し送りの際に話しあったり、毎月の会議で職員の意見や提案を取り上げ、その都度話し合いを行い、思いが反映できるよう努めている。また、連絡用のノートを活用し、職員間で情報を共有できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課では職員個々の仕事の努力を評価できる機会であり、職員の意見や要望を発言出来る機会を設け働きやすい環境作りに努めている。年2回、健康診断を行い職員の健康管理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体会議に介護技術や認知症ケア等について内部研修を行っている。また、職員の力量を把握し指導をしている。職員はリモートによる外部研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの為、同業者との交流はできていない。今後は新型コロナウイルスの状況を確認しながらサービス向上の取り組みをしていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の情報を職員間で確認し家族様から利用者様の情報収集し本人と話す機会を設け不安や要望を聞き要望は可能な限り対応しながら信頼関係を築けるように寄り添い安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様・家族様と話す機会を設け家族様の思いや要望・不安な事に耳を傾け、それに対しての支援の仕方などを話し合いながら信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様の思いを聞き、まず優先しておこなうサービス内容を話し合い支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援するだけでなく利用者様の出来る事を会話の中から引き出したり家族様からの情報で一緒に家事などを行い家庭的な雰囲気の中で利用者様と職員が暮らしを共にしているという関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に受診対応協力や利用者様のケアの相談をしながら家族様と職員が共に利用者様を支えあえる関係づくりと家族様と利用者様の絆を大切にしながら支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴を把握して自宅や美容院に行く等して馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援していたが新型コロナウイルスのため、利用者様の希望する場所や馴染みのある方との交流はできていない。今後は感染状況を確認しながら利用者様が希望する場所へ出掛けれるようにしていきたい。タブレット面会も行っている。	コロナ禍で面会制限があるなかでも、電話やタブレット等を活用し、家族との関係性が途切れない工夫をしている。感染状況を考慮しながら、家族や顔馴染みの方たちとふれあう機会を増やせるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で話し合い利用者様が会話出来るように座る位置などを配慮し状況に応じて職員が間に入り会話する等して利用者様が孤立しないようにしている。また、アクティビティや装飾作り等で利用者様同士が関わりをもてるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、利用者様や家族様が不安にならないように次の生活する所の関係者に利用者様情報を提供している。退居後も家族様や利用者様との関係を継続していけるように努めていく。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日頃の会話から利用者様の希望や気持ちを把握し職員間で話し合い、利用者様の意向や希望に沿えるようにしている。また、家族様からも利用者様の希望や気持ちを聞き支援に繋げている。	本人から聞き取りし、望む生活の把握に努めている。聞き取りが難しい利用者からは、本人が発した言葉や仕草等、日常生活の中から思いを探り、家族とも相談し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人や家族様・担当ケアマネージャーと面談を行い利用者様の生活歴馴染みの暮らしなどの情報内容を職員間で共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者様のケアや心身状態を観察し記録に残し介護や看護職員と利用者様のケアや状態について話し合いをして状態把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の利用者様の観察と会話の中から要望などを聞き、家族様からは電話で意向や意見を聞いた上で1ヶ月ごとのモニタリングと6ヶ月毎の評価をし、ユニット会議でカンファレンスを行い職員間で話し合いをして介護計画書を作成している。利用者様の状態変化時は見直しを行っている。	毎月のユニット会議・カンファレンスで利用者本人、家族の意向を反映し、状態に合わせた介護計画を作成するよう努めている。状態変化や新たな課題がある時には、その都度話し合い、検討や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様ののケアプランに沿って体調や心身状態の変化やアクティビティ等をケースに記録している。家族様への連絡内容もケースに記録している。また、職員間で連絡ノートや業務日誌で情報共有し6ヶ月に1回介護計画書の見直しを行い統一したケアに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の意向や状態に変化があった時は柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方達は包括支援センター、行政の職員、民生委員、自治会の方達であり協働で利用者様が安心して生活出来るように今後は取り組んでいきたい。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様の意向や状態に変化があった時は柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。家族様の希望に合わせてかかりつけ医に利用者様の細やかな状態を伝え、家族様からの受診後の報告に対して疑問がある時はかかりつけ医に連絡し解決した上で支援している。	できる限り入居前のかかりつけ医に通院し、継続的な診療が行われるよう支援している。家族が付き添う場合には状態を伝えている。受診後の家族からの報告に漏れがある時は、直接病院へ連絡して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護職員が健康管理を行い介護職員は利用者様の状態変化に迅速に気づき看護職員に報告し支援方法の指示のもと、支援し受診必要時は適切な医療が受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関に情報提供し利用者様が安心して治療を受けれるようにしている。入院中も病院関係者から利用者様の状態の情報収集し退院の際も医療機関や家族様から情報収集や面談を行い必要時はカンファレンスを行い受け入れをしている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	入居時に家族様に重度化した場合と看取りについての指針について説明をしている。利用者様の状態に応じて利用者様と家族様の意向を確認し、その時々で家族様と職員で十分に話し合い支援方法を決め共有するように取り組んでいる。	看取りの指針を作成しており、入居時に説明を行っている。これまで看取りケアを行っていないが、状態変化や緊急時の対応等について看護師による研修を実施している。状態変化が予測される場合に備えてオンコール体制が取られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、職員全員が救急救命講習を受け誤嚥性や応急手当について受講していたが現在は新型コロナウイルスの為、救急救命講習が開催がない為、ホームで感染症や応急措置などの内部研修を実施している。急変時マニュアルを各ユニットに掲示している。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス前は年2回、消防署立ち合いで日中・夜間想定で訓練を行っていたが現在は新型コロナウイルスの為、年2回の訓練時は消防署立ち合い無しで行い、緊急連絡網に沿って連絡し職員・利用者様全員参加で実施。災害用の非常食の準備もしている。	利用者も参加し年2回避難訓練を実施している。緊急連絡網を作成し、職員が災害時に駆けつけられる体制を整えている。必要物品を備蓄し、災害時に対応できるよう準備している。非常食を避難訓練後に食事として提供し、使用方法を確認している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の、その人らしさと尊厳に配慮した声がけを行い利用者様一人ひとりのペースに合わせた支援が出来るように職員間で話し合いした上で支援している。ケア時はプライバシーに配慮し不適切な声がけをや対応には、ユニット管理者がその場で指導している。	気になる言葉が聞かれた時には、その都度注意し合い、利用者の気持ちに配慮した声掛けができるよう支援している。個人情報を放置したままにしないよう、プライバシーの保護に配慮している。	調査時、居室のドアの開放が見受けられた。利用者のプライベート空間を確保するための工夫を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や思いを日々の生活の中から引き出し利用者様自身が決めれるような声がけをしている。意思表示の難しい利用者様はしぐさや表情などで読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で支援を行うのではなく利用者様一人ひとりのペースを大切にし利用者様が思いのまま過ごして頂けるようにしている。また、利用者様の思いに沿えない時は職員間で話し合い利用者様の思いに沿えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に整容の声がけをし乱れ時は自尊心に配慮した声がけと支援をしている。入浴準備は利用者様に選んで頂き、その他は季節に合わせて準備している。不定期ではあるが利用者様に確認しながらコロナ感染防止対策をしながら散髪をしてもらっている。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に利用者様に嗜好調査を行い利用者様の好みに配慮しながら食事が楽しみの一つになるように努め職員は検食をする事で味付けや大きさを検討して提供している。また、利用者様の状態に合わせて調理や後片付けを一緒に行っている。	利用者の嗜好品や季節に合わせた献立をユニット会議や給食委員会で意見を出し合い決めている。看護師と相談し、身体状況や嚥下機能に合った食事形態を検討している。食前に口腔体操を行い、食事が摂りやすくなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	１日の利用者様の食事量や水分量を把握し記録にしている。また、その都度、利用者様の状態に合わせた食事形態や介助の仕方を職員間で話し合いした上で変更し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりの状態や力に合わせた口腔ケアをし就寝時には義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の自尊心やプライバシーに配慮し力や排泄パターンに応じて声がけと誘導を行っている。言葉に出来ない利用者様にしぐさ等を観察し職員間で排泄パターンや力・排泄量によって誘導時間やパット工夫やケアの検討を行い自立に向けた支援をしている。	個々に排泄パターンや、状態の把握に努め、できる限りトイレで排泄できるよう支援を行っている。自然排便を促すよう、朝に水分を摂ってもらったり、乳酸菌飲料を飲用して頂く等の工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	毎日の食事・水分量を把握し飲料物の工夫をしながら支援し、利用者様の状態によってかかりつけ医と看護職員と相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりのタイミングでの入浴は行えていない。週2回の入浴と利用者様の希望や状態に合わせた入浴方法での支援をしている。	一人ひとりの状態や気持ちに合わせて、週2回は入浴できるよう支援している。皮膚トラブルのある利用者へは部分浴を行う等、悪化防止に努めている。中間浴や特殊浴槽も完備しており、利用者の身体状況に合わせて対応が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や生活リズムを考慮して休息出来るようにしている。また、日中はアクティビティ等を行い活動的に過ごして頂き夜間、安眠出来るように支援し必要の応じてかかりつけ医と相談して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助マニュアルに沿って必ず職員2人で確認し誤薬防止をしている。また利用者様が飲み込むまでの確認と内服薬変更時は業務日誌で情報の共有し職員全員が内服薬の目的や副作用について処方箋を確認しながら把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴から好きな事、興味のある事を会話の中から引き出しアクティビティ等の時間帯に行い、気分転換にホーム周囲を散歩し、行事などで季節感を感じ楽しんで頂けるよに支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス前は家族様と外出していましたが現在はコロナ感染防止の為、家族様との外出や外出行事は出来ていないがホーム周囲の散歩や体操をして気分転換出来るように支援している。今後は新型コロナウイルス感染状況を確認しながら支援していく。	コロナウイルス感染予防のため、地域行事への参加や家族との外出は控えているが、グループホーム周辺の散歩やドライブに出掛ける等、気分転換が図れるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族様にお小遣いはホーム管理している事を説明している。利用者様と家族様の希望で、お金を所持している利用者様に関しての所持金確認等については家族様と相談して同意を得て支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望時はいつでも電話出来るように支援している。新型コロナウイルスの為、面会制限がありリモート面会が出来る事を家族様に伝えて支援している。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内や利用者様の居室の清潔を保つように努め利用者様に不快な思いをさせないように室温、冬季には加湿器や利用者様の居室にタオルを掛ける等して加湿の工夫とコロナ感染防止の為、換気を定期的に行っている。利用者様と一緒に季節装飾作り行いホーム内や廊下に展示して季節感を感じられる工夫をしている。	各居室やホールに温度計を設置し、体感だけでなく、適切な温度が保てるよう配慮している。仲の良い利用者同士が和やかに過ごしたり、転倒の危険がないよう動線を確保した家具の配置を工夫している。装飾品も季節ごとに変え、四季を感じられるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が思い思いに会話して過ごせるようにテーブル席とソファーに座る位置の工夫や歩行や意思表示の難しい利用者様が一人で過ごすことのないように工夫している。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が自宅で使用していた馴染みのある物を入居時に持って来てもらうように家族様に働きかけている。馴染みのある物を活かしながら利用者様と家族様の希望に沿えるよう相談しながら家庭環境に近い環境で心地よく過ごせるように支援している。	入居時に自宅で使用していたものや馴染みのあるものを持参するよう働きかけている。また、本人や家族と室内の家具や持参品の配置を決め、快適に過ごせる環境を一緒に整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの身体の状態などに合わせて手すりや居室環境を変えトイレ等の場所に目印を表示し利用者様が安全に自立した移動で生活出来るようにしている。		